

令和5年度 第4回西宮市民ファミリーハイキング事業報告

奥アンツーカ株式会社

【実施日時】 令和5年9月18日（月・祝） 10:30～13:45

【実施概要・コース】

令和5年度9月のハイキングは、秋のベストシーズン前の嵐山を訪ねました。10:35に阪急嵐山駅を出発、すぐ近くの渡月橋を渡り、まず、天龍寺の放生池、勅使門などを見学しました。当日はまだ夏のような暑さが続いていましたが、時代劇などでもおなじみの竹林の小径に入ると心地よい日陰の中を進むことができました。竹林の小径の中にあり、源氏物語の「賢木」の巻の舞台となり、嵐山を表した美しい「じゅうたん苔」の庭園として有名な野宮神社を訪ねましたが、周囲は外国人観光客でいっぱいでした。

続いて、再び昼の日差しが厳しい道を進み、釈迦如来を本尊とする浄土宗の寺院で、光源氏のモデルとなったという源融（みなもとのとおる）の別荘「栖霞観」（せいかかん）があった場所に建立された清涼寺を訪ねました。清涼寺の鐘楼のつくる陰で小休止し、しばし日照った体を冷まします。

その後は、嵯峨野の木陰が多い小道を通り、小倉池の横を通り、小高い丘となっている嵐山公園亀山地区の展望台に向かいました。そして、古より和歌にも歌われた保津峡の絶景を楽しみました。その後、嵐山公園内で昼休憩を取り、昼食後に再び渡月橋を渡り、阪急嵐山駅前で解散しました。この日の参加者は39名。約6.0kmの中級コースを全員が無事完歩し、帰路につくことができました。

<本日のコース>

9/18(月・祝)	ファミリーハイキングの行程
10:30～10:35頃	阪急嵐山駅前で説明・諸注意後、出発。 嵐山公園（中之島地区）を通り、渡月橋へ。
10:45頃	【見どころ1】 渡月橋 天龍寺境内（法堂 1.3km・放生池 1.4km、勅使門 1.5km）
11:05頃	【見どころ2】 竹林の小径（1.8km）
11:25～11:35頃	【見どころ3】 野宮神社（2.0km）
11:45～12:00頃	【見どころ4】 清涼寺(嵯峨釈迦堂)（2.8km）自由散策 ※境内にトイレあり 二尊院前・小倉池を經由
12:25～12:30頃 ～13:10	【見どころ5】 嵐山公園展望台より保津峡を展望 嵐山公園で昼食（4.2km）※公園内にトイレあり(アンケート回収・完歩シール配布) 保津川沿い（4.9km）～
13:40頃	渡月橋北詰（5.3km）※ 嵐電で帰る方、嵐山散策の方は、順次解散。
13:45頃	阪急嵐山駅前（6.0km）で終了・解散：

- ① 阪急嵐山駅に集合
諸注意後に出発、渡月橋に向かいました。
夏のような日差しの中を、参加者のみなさんは進んでいかれました。



見どころ1 渡月橋

嵐山の景観に、ひときわ趣を添える渡月橋。大堰川にかかる全長155メートルのこの橋は、承和年間（834～847）、弘法大師の弟子で、法輪寺を興した道昌によってかけられました。当時はもう少し上流にあり、法輪寺橋と呼ばれたそうです。渡月橋という名が登場するのは、それから約440年後。亀山上皇が、その橋の姿を「くまなき月の渡るに似たり」とたとえたことから、渡月橋と改められました。しかしその後の長い年月の間に、何度も焼亡と流失を繰り返します。現在のものは昭和9年の改築により完成。昔ながらの風情を残した姿が見事に調和したこの橋によって、現代の嵐山の景観は完成したのです。

（参考 京都府HP「嵐山公園・嵐山東公園」<https://www.pref.kyoto.jp/koen-annai/ara.html> より）



② 渡月橋を渡った後、竹林の小径でようやく木陰に入りましたが、外国人にも人気なのか、かなり多くの観光客の方がおられました。野宮神社境内も人でいっぱいでした。



見どころ2 竹林の小径

手入れされた竹林が道の両脇に続く、京都を代表する観光名所です。平安時代には貴族の別荘地だったと言われており、晴れた日には木漏れ日が心地よく、また太陽のない日は昼でも薄暗くなります。

（参考：京都観光オフィシャルサイト

https://ja.kyoto.travel/tourism/single01.php?category_id=8&tourism_id=2683）

見どころ3 野宮神社

京都市右京区嵯峨野にある古社が野宮神社。平安遷都後創建の古社で、神宮(伊勢神宮)の斎王に決まった皇女が、3年間社にこもり、心身を清める精進潔斎をする習わしがあったとされる社です。周囲を野宮竹の林に囲まれ、紫式部作『源氏物語』の舞台としても知られています。

斎王とは、天皇が新たに即位するごとに天皇の代理で伊勢神宮に派遣された斎宮。未婚の内親王（親王宣下を受けた天皇の皇女）または女王（親王宣下を受けていない天皇の皇女、あるいは親王の王女）から選ばれました。平安時代から南北朝時代時代までの660年間に64人の斎王が野宮神社で禊を行ない、伊勢へと派遣されています。数百人にも及ぶお供を引き連れ、伊勢神宮に到着するまで5泊6日という道のりでした。

また、野宮神社は、『源氏物語』の「賢木の巻」では別れのシーンで登場していますが、実は御本殿左側に祀られた祭神のひとつ野宮大黒天（ののみやだいこくてん）は、縁結びの神様。隣の神石「お亀石」をなでると1年以内に願いごとが成就するといわれています。

野宮神社の黒木鳥居はクヌギの木の皮を剥かないまま使用する、日本最古の鳥居の様式。境内には「野宮のじゅうたん苔」と呼ばれる庭園もあるのでお見逃しなく。（参考：日本旅マガジンサイト

<https://tabi-mag.jp/ky0016/>）



③ その後、清涼寺の山門をめざして、しばらく夏のような日差しの中を進みました。清涼寺は、山門（仁王門）も本堂も鐘楼も大きな建物で、鐘楼のつくる大きな陰で一休みしました。

見どころ4 清涼寺(嵯峨釈迦堂)

清涼寺は、五台山と号する浄土宗のお寺です。もとの地には、源融（みなもとのとおる）の山莊棲霞観（せいかかん）がありましたが、これが後に寺となって棲霞寺と称しました。永延元年（987）喬然（ちょうねん）上人が、愛宕山を中国の五台山に模して大清涼寺を建立しようとして志半ばで没し、弟子の盛算（じょうさん）がその遺志を継いで、棲霞寺内の釈迦堂をもって清涼寺としました。現在の本堂は、元禄 14 年（1701）徳川五代将軍綱吉（つなよし）、その母桂昌院（けいしょういん）、大阪の豪商泉屋（後の住友）吉左衛門らの発起により再建されたものです。本堂内には、本尊釈迦如来立像（国宝）及び地藏菩薩立像（重要文化財）が安置されています。霊宝館には、阿弥陀三尊像、十大弟子像、四天王立像、文殊（もんじゅ）菩薩騎獅像、普賢菩薩騎象像、兜跋（とばつ）毘沙門天立像（いずれも重要文化財）等が安置されているほか、境内には、喬然上人、源融、嵯峨天皇、檀林皇后の墓が、境外北側墓地には、遊女夕霧太夫及び十萬上人の墓があります。

（参考：京都観光オフィシャルサイト

https://jakyoto.travel/tourism/single02.php?category_id=9&tourism_id=346）



④ 清涼寺の参拝の後、嵯峨野の小道を歩きました。ところどころに大木が作る木陰があり、一服の涼を感じました。小倉池には季節外れの蓮の花が咲いていました。



さらに、嵐山公園亀山

地区に歩みを進め、展望台より保津峡を展望しました。

見どころ5 嵐山公園亀山地区(展望台より保津峡を展望)

亀山地区は、小倉山（296m）から大堰川沿いに派生する尾根の末端に広がる丘陵地で、直下を山陰本線の小倉山トンネルが抜け、北出口側（トロッコ嵐山駅側）には大河内山荘、竹林の小径があります。

亀山地区は、アカマツが茂るなか、桜やカエデが混交し、ヤマツツジなどが群生するなど、美しい自然が印象的で、そのなかに園路が配され、広場や休憩所、頂上展望台、展望所、児童広場、「嵐山 祐斎亭」、「松籟庵」などがあります。

頂上展望台は、足元が大堰川に向けて嵐峡と呼ばれる断崖となった場所で、まさに眼下に大堰川の流れ、浮かぶ嵐山通船の和船を目にできます。また、右側に見えるのが小倉山、左手に見えるのが嵐山で、百人一首の和歌の舞台ともなっています。

（参考：日本旅マガジンHP：<https://tabi-mag.jp/ky0620/> ほか）



⑤ 最後に亀山から保津川辺に下り、渡月橋の手前で解散です。夏の名残が残る嵐山を、みなさん堪能され帰路に着きました。

